

アピール

私たちは今日、私たちの命とくらしを守るため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と闘っている医療・介護従事者から最前線の現場の声を聞き、課題意識を共有しました。

すべての働く人が安心して働き続けるためには、医療・介護サービスの担い手確保が欠かせません。コロナ前から慢性的な人材不足に陥っていた医療・介護現場に、コロナの感染拡大が追い打ちをかけています。医療・介護従事者は、長期にわたる感染対策の強化、自身のコロナへの感染リスクに加え、患者・利用者に感染させてしまうのではないかと不安にさらされる中、収入の低下、いわれなき誹謗中傷などにより積み重なる肉体的・精神的負担で疲弊しています。

医療・介護現場では、夜勤をはじめとする業務負担の重さなど多くの課題があります。医療現場では、長時間労働削減や勤務間インターバル制度の導入促進をはじめ、ワーク・ライフ・バランス施策の充実により、職員の離職を防ぎ、各サービスの供給量の確保とともに質の向上を実現することが求められています。また、介護従事者については、処遇改善が行われてきているものの、依然として命とくらしを守る仕事に見合った賃金水準とはほど遠いのが実態です。介護サービス需要の急増が見込まれる中、さらなる処遇改善措置を実施し、人材確保を進めていくことが不可欠です。

仕事のやりがいや誇りを感じ、長く働き続けられる医療・介護サービスの職場づくりが必要です。私たち労働組合は、それぞれの働く職場における健全な労使関係を構築し、組合員の輪を広げ、連帯をさらに強めていきます。そして職場や地域の声を結集し、医療・介護の実態を広く国民に訴え、職場の改善や政策実現に向けて引き続き前進し続けます。本日のイベントをきっかけに、改めて私たち全員が「安心と信頼の医療と介護」を実現する当事者となり、「働くことを軸とする安心社会」をめざして行動することを、ここに宣言します。

2021 年 5 月 22 日

医療・介護フェス 2021 ～安心と信頼の医療と介護 中央集会～